

授業改善プラン

地域名	北総教育事務所	学校名	八街市立八街中央中学校
-----	---------	-----	-------------

1. 課題（全国学力・学習状況調査結果から）

- 平成30年度調査において数学A・Bともに「関数」領域に課題が多い。
- ・問題形式では特に「記述式の問題」について課題が大きく、無解答の割合も高い。
- ・数学Bでは、事柄が成り立つ理由を構想を立てて説明することや、事象を数学的に解釈し問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 主体的で対話的な授業において、自他の考えを交流する活動の中に記述する場面を積極的に取り入れることで、表現力を高めることができるだろう。

3. 具体的な実践

- 第1学年「正負の数」
 - ・より速く簡単に正確に平均を求める方法を検討し、その方法を伝えられるようにした。
- 第1学年「方程式」
 - ・方程式を利用して求めた解を吟味し、答えとして適切であるか判断できるようにした。
- 第2学年（学び合いコース）「1次関数」
 - ・1次関数についての既習内容を分類し、傾きと切片と関連させてまとめられるようにした。
- 第2学年（学び合いコース）「平行と合同」
 - ・ n 角形の内角の和について帰納的に考え、 n を用いて表せるようにした。
- 第3学年（学び合いコース）「多項式」
 - ・倍数の見分け方を文字の式を利用して説明できるようにした。
- 第3学年（じっくりコース）「2次方程式」
 - ・2次方程式の解法の選び方について自分のことばでまとめ、選択できるようにした。

4. 成果

- ・授業の中で記述や説明をする場面を積極的に設定し教員の授業改善に対する意識が高まった。
- ・生徒同士で説明し考えを深めるための授業をどのように実施すればよいのか工夫するようになった。

◆担当指導主事から（北総教育事務所 指導主事 丸 庸仁）

八街市立八街中央中学校は、全職員で全国学力・学習状況調査の結果を分析し、課題を焦点化させて全校体制で授業改善に向けて取組を進めた。特に数学科は6名の職員が3回に分けて検証授業を展開し、その都度、課題を明確化させ研究を深めた。「『思考し、表現する力』高める実践モデルプログラム」を活用しながら、「自分の言葉で学習のまとめを書く」の実践を繰り返し、課題の克服に向けて継続的に取り組んだ。